

# テイカカズラ

[木本] 《忌避》



林縁などで樹幹を覆う。



葉は対生する。



5～6月に開花する。

## 区別のポイント

葉は対生し楕円形で全縁。茎から気根を出し、樹幹や岩に登る。

**形態** 常緑つる性木本。

**分布** 本州・四国・九州／九州南部以南（リュウキュウテイカカズラ）

**名前の由来** 式子内親王を愛した藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、定家葛に生まれ変わって彼女の墓に絡みついた伝説から。リュウキュウテイカカズラは九州南部から琉球列島にある変種。

**葉** **〈全体〉**楕円形で長さ3～7cm。革質で光沢がある。林床を這う蔓の葉は長さ1～2cmと小型で、波状の浅い鋸歯があり、脈沿いに斑が入る。

**〈付き方〉**対生。 **〈葉先〉**鈍頭またはやや尖る。

**〈縁〉**全縁。

**備考** 有毒：トラチェロッド、トラヘロサイド（茎・葉・汁液）

**出典** 4, ※